

# こくりこ日記

高田昭子のb2evolution blogです

アーカイブ: **2009年1月**

**2009/01/31**

🕒 14:58:21, カテゴリ: [詩の歳時記](#), views: 1273 

詩の歳時記ー215 「龍の玉」



生ひ立ちは誰も健やか龍の玉

村越化石

死して生まれよ！  
ドイツの詩人は言葉に祈る  
ひとのいのちは一回限り  
はずみ玉のごとくすこやかに生まれよ  
生きよ 生きよ 茨の世だとしても。

[2 コメント](#)・[編集](#)



**2009/01/30**

🕒 15:44:46, カテゴリ: [詩の歳時記](#), views: 764 

詩の歳時記ー214 「水仙花」

こくりこ日記

高田昭子のb2evolution blog  
[吸殻山383番地の家に戻る。](#)  
[中央1番地に戻る。](#)

- [最新](#) (キャッシュ)
- [最新](#) (キャッシュされない)

2009年1月						
日	月	火	水	木	金	土
				<u>1</u>		
<u>4</u>	5	6	<u>7</u>	8		
11	12	<u>13</u>	14	15		
18	19	<u>20</u>	21	22		
25	<u>26</u>	27	28	<u>29</u>		
<< <						

- [最近のコメント](#)

## Heavy Hitters

- [Test](#) (20 visits)
- [Walking1日目。](#) (20 visits)
- [詩の歳時記ー56](#) (20 visits)
- [引用文ー23・あきらめ](#)
- [詩の歳時記ー117](#) (19 visits)
- [詩の歳時記ー82](#) (19 visits)
- [花守](#) (19 visits)
- [かぼちゃな一日](#) (19 visits)
- [詩の歳時記ー305](#) 「う」 (19 visits)
- [詩の歳時記ー274](#) 「あ」 (19 visits)
- [詩の歳時記ー253](#) 「れ」 (19 visits)
- [詩の歳時記ー123](#) 「せ」 (19 visits)

## 検索

- ☒ 全ての語
- ☐ いずれかの語



迷ひ子のみる交番の水仙花

木山捷平

泣きじゃくる子の頬赤く染まり  
どこから来たのでしょうか  
どこへ行きたかったのでしょうか  
一茎の水仙の花たちも  
北を向いたり 西を向いたりして

• [編集](#)



## 2009/01/29

🕒 18:40:53, カテゴリ: [詩の歳時記](#), views: 753

詩の歳時記ー213 「夜寒」

フレーズ

[検索](#)

カテゴリ

- [All](#)
- [百人百詩](#) (100)
- [詩の歳時記](#) (365)
- [詩日記](#) (20)
- [My Haiku](#) (49)
- [Walking](#) (13)
- [引用文](#) (31)
- [日記](#) (163)

[選択](#)

アーカイブ

- [2015年11月](#) (1)
- [2015年7月](#) (1)
- [2015年5月](#) (2)
- [2015年3月](#) (3)
- [2015年2月](#) (2)
- [2015年1月](#) (3)
- [2014年12月](#) (2)
- [2014年11月](#) (2)
- [2014年10月](#) (3)
- [2014年9月](#) (2)
- [2014年8月](#) (2)
- [2014年7月](#) (2)
- [続き...](#)

いろいろ

- [管理](#)
- [プロフィール \(admin\)](#)
- [ログアウト \(admin\)](#)

このブログの配信

- RSS 0.92: [投稿](#), [コメン](#)
- RSS 1.0: [投稿](#), [コメント](#)
- RSS 2.0: [投稿](#), [コメント](#)



■ Atom: [投稿](#), [コメント](#)

[What is RSS?](#)

powered by  
**b2evolution**

汽車降りて夜寒の星を浴びにけり

野村喜舟

雪月花

静かな真昼の美術館

その記憶を乗せて列車は走る

薄い夕暮を抜けて夜の駅

冬の星の祝福を浴びるまで

• [編集](#)



---

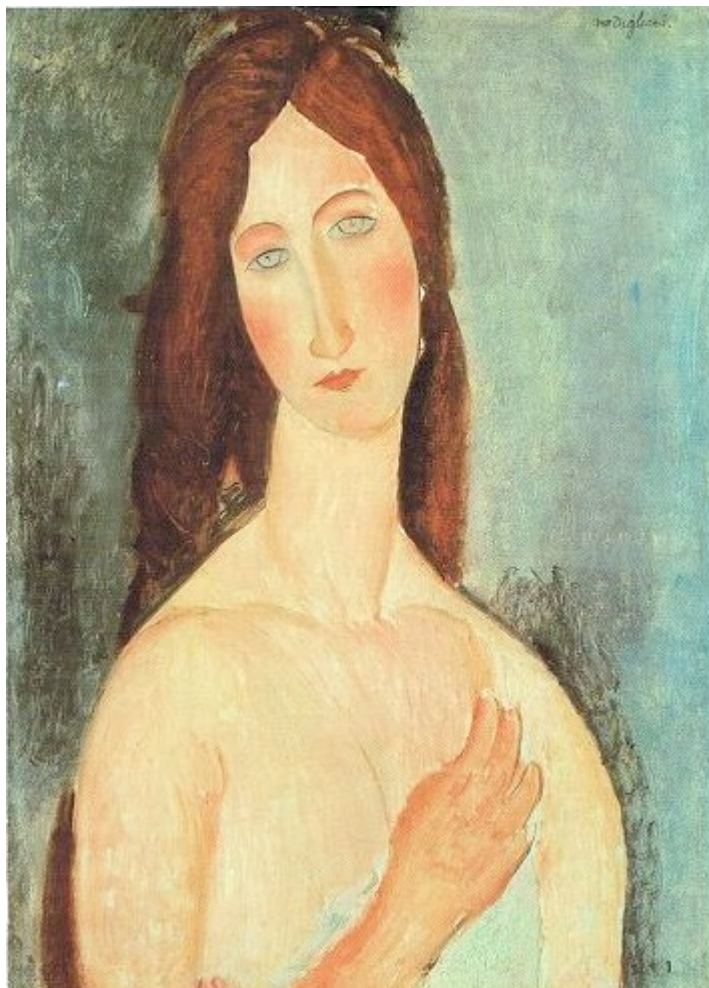
## 2009/01/26

---

📅 21:01:31, カテゴリ: [詩の歳時記](#), views: 671 🇯🇵

詩の歳時記—212 「雪国」





雪国に子を生んでこの深まなざし

森澄雄


雪国に生まれて 雪国に育ち  
ひとを愛し 赤子を生んで  
雪の重みにきしむ家で子を抱く  
見上げる子の輝く瞳は追う  
母の深きまなざしを

・編集



---

## 2009/01/23

🕒 22:22:47, カテゴリ: [詩の歳時記](#), views: 682 

詩の歳時記ー211 「雪」



雪に十歩遠きへ出でて居るごとし                      村越化石

雪は音もなく降る  
 やわらかな雪を踏む  
 眼には見えずとも  
 記憶の雪は降り積もる  
 わずか十歩は五十年ともなるのでした

\*       \*       \*

村越化石の略歴（Mr.Fより頂いたものです。感謝。）

大正11年（1922）静岡県藤枝市岡部町生まれ。  
 昭和13年（1938）旧制志太中学（現藤枝東高）在学中にハンセン病を発病。中退し離郷。  
 昭和16年（1941）栗生楽泉園に入園  
 昭和18年（1943）「鴨野」で本多一杉の指導を受ける  
 昭和24年（1949）大野林火に師事「濱」同人  
 昭和33年（1958）第4回角川俳句賞  
 昭和37年（1962）句集「独眼」を発刊  
 昭和45年（1970）失明  
 昭和49年（1974）「山国抄」発刊 第14回俳人協会賞  
 昭和54年（1979）俳人協会刊「自註句集・村越化石集」を編集  
 昭和57年（1982）「端座」を発刊 第17回蛇笏賞  
 昭和63年（1988）「筒鳥」を刊行  
 平成元年（1989）第4回詩歌文学館賞  
 平成2年（1990）第27回点字毎日文化賞授賞  
 平成3年（1991）紫綬褒章を受ける  
 平成20年（2008）山本健吉文学賞を受ける

平成13年（2001）「『らい予防法』違憲国家賠償請求訴訟」の裁判勝訴の判決後、里帰りを果たした。実家を出てから60年以上たっていましたのに、間取りを記憶していて仏間に直行して、両親に草津土産を供えてご焼香をなさったとのこと。ということは、生家はそのまま残っていたことになります。

「俳句朝日」の終刊号は村越化石の特集でしたが、そこにはどっしりとした生家の写真もあり、相当の旧家だったようです。

(記載間違いがありましたら、ご指摘下さい。)

• [編集](#)



## 2009/01/20

🕒 21:33:05, カテゴリ: [詩の歳時記](#), views: 680 🇯🇵

### 詩の歳時記ー210 「風邪」



何をきいても風邪の子のかぶりぶり

小路智壽子

記憶をたぐってゆくと  
風邪をひいた小さな子が眠っている  
水仕事のあとの母の手が  
時折まどろみのなかにさし入れられ  
子のかぶりがかすかに揺れた

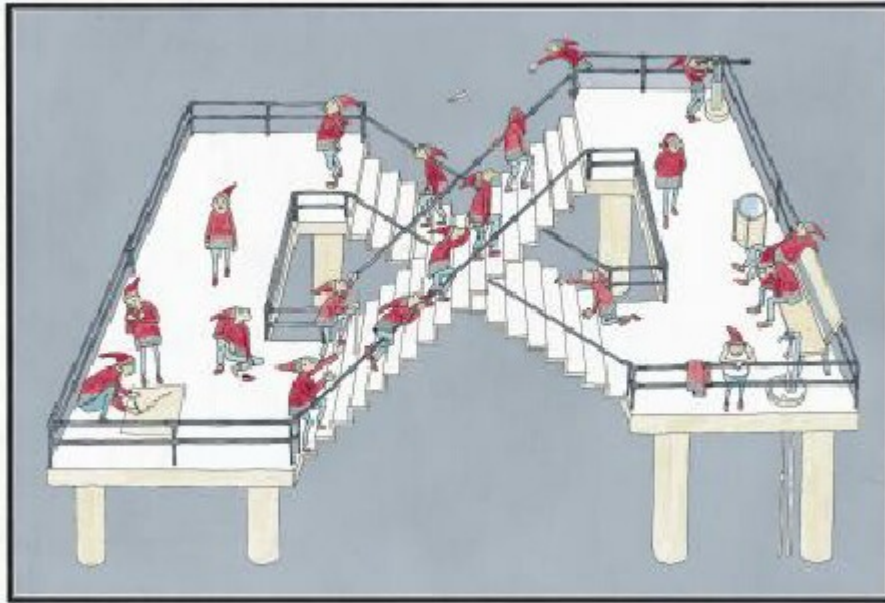
• [編集](#)



🕒 00:30:06, カテゴリ: [日記](#), views: 1015 🇯🇵

休憩かな？





昨年からひきずっている風邪が、まだ完治しない。  
これは、からだへの「休息命令」ではないか？  
眠い。頭が働かない。本も読めない。手紙もかけない。ないないないない・・・。

[5 コメント](#)・[編集](#)



## 2009/01/17

🕒 15:59:53, カテゴリ: [詩の歳時記](#), views: 636

詩の歳時記ー209 「枯野」



火を焚くや枯野の沖を誰か過ぐ

能村登四郎

草原の民は祈る

どうぞこの手のひらに一掬いの海を下さい  
草の海は枯野になって  
その沖の方をひっそりと過ぎ去る者がいる  
遠い足音 潮騒はまだ聴こえぬ

• [編集](#)



## 2009/01/16

🕒 00:50:51, カテゴリ: [詩の歳時記](#), views: 761 🇯🇵

詩の歳時記—208 「訃」



(Photo by Denden)

きみ嫁けり遠き一つの訃に似たり

高柳重信

あなたが嫁いでゆく  
胸のなかから  
微かな亀裂の音が聴こえてくる  
それは訃音に似て・・・・・・・・

• [編集](#)



## 2009/01/13

🕒 15:48:21, カテゴリ: [詩の歳時記](#), views: 874 🇯🇵

詩の歳時記—207 「雪」





天上に宴ありとや雪やまず

上村占魚


雪は白い小さな灯りのように  
絶え間なく 音もなく降ってくる  
遠い空の奥では神々の宴  
打ち鳴らす祝盃のあわいに  
ひかり砕けるものがしきりに落ちる

[4 コメント](#)・[編集](#)



---

## 2009/01/10

📅 14:15:40, カテゴリ: [詩の歳時記](#), views: 762 

詩の歳時記ー206 「樹氷」



(Photo by Denden)

樹氷いま鳴れば一山鈴の音に

長沼三津夫

山の樹々が  
枝々に氷の花をまとう季節  
風よ吹け  
冬の花は幾千の鈴の音となる  
耐え切れずに全山が鳴り出すことだろう

• [編集](#)

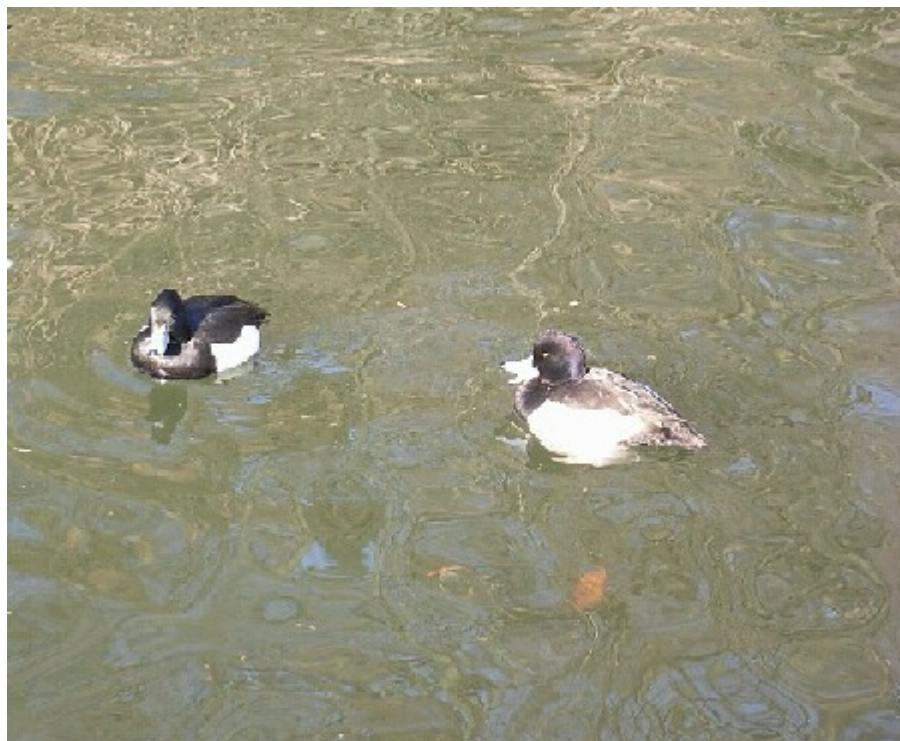


---

## 2009/01/09

🕒 16:34:58, カテゴリ: [詩の歳時記](#), views: 683

詩の歳時記—205 「水鳥」



水鳥の水尾くづれゆく風の声

中元英雄

水鳥が胸を膨らませて  
冷たい水面を進んでゆく  
鳥の尾から生まれる水の尾  
水の尾に触れてゆく風の尾  
ひとの耳は風景を聴きとる

• [編集](#)



---

## 2009/01/07

🕒 17:32:37, カテゴリ: [詩の歳時記](#), views: 726

詩の歳時記204—「噴水」



水を脱ぎ噴水空に飛沫せり

中尾公彦

水は水を脱ぐ  
わたくしがわたくしを脱ぐ  
空のなか 不思議は起こるもの  
落下するとき  
欠片となるか 形となるか

• [編集](#)



---

## 2009/01/04

---

🕒 22:03:00, カテゴリ: 詩の歳時記, views: 752 

詩の歳時記ー203 「野球」





野球のバットを持つ子規(明治  
23年3月, 松山市立子規記念  
博物館所蔵)

球投げに似たる二人の候ふ文

高田昭子

漱石さま 子規さま  
お二人の往復書簡盗み読み候  
「アヂユー」「勿々」  
「燈火ニ書ス 倫敦ニテ」  
……キャッチボールの如し

\* \* \*

とりあえず、遊びから再開します(^^)。

[2 コメント](#)・[編集](#)



## 2009/01/01

🕒 18:52:09, カテゴリ: [日記](#), views: 797 🇯🇵

謹賀新年

ことしもよろしく願いいたします。

あかるい  
けさの  
まどをあければ  
しろいひかり  
てをさしのべ  
おひさまの  
めぐみをいただく  
でかけよう  
とをあけて  
うつくしいあさのみちへ  
ごこのじんじやの  
ざわめきのなかで  
いのります  
またおとずれたいちねんの  
すこやかなあなたのひびを

二〇〇九年 元旦



[2 コメント](#)・[編集](#)



Original template design by [Fran ois PLANQUE](#).

